

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390100143		
法人名	株式会社ぬくもあ		
事業所名	グループホーム覚王山 2F		
所在地	愛知県名古屋市中種区川崎町一丁目48番地		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	平成29年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一建物内に看護小規模居宅介護が併設しているため看護師が常駐しており医療依存度が高い方でも対応できる。
H29年5月に認知症カフェをオープンする。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2390100143-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人の母体が医療機関であることで、利用者の身体状態等に合わせた受診支援等が行われており、ホームでの看取り支援にも対応できる体制が整えられている。日常的な支援についても、ホームは建物の1階に看護小規模多機能事業所を併設していることで、毎日の申し送りをホームと合同で実施する等、情報交換の機会がつけられている。夜間についても、看護職員が夜勤で勤務している体制であるため、夜間の利用者の急変時等の際にも医療面での柔軟な支援が行われており、利用者、家族にとっては安心して過ごすことができる環境が整えられている。また、地域の方との交流については、運営推進会議を通じた地域の方との情報交換の他にも、ホーム近隣に保育園があり、保育園との関係を深めながら園児との交流会の機会がつけられており、利用者の楽しみにもつながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年3月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の見えるところに掲示してあるが、実践につなげていけない	法人の理念をホームの基本理念をしており、法人で理念の見直しが行われている。理念については、職員会議でも話し合われており、職員への周知が行われている。また、ホーム内に理念の掲示が行われている。	理念は職員による利用者への支援の基本方針でもあるため、職員間で理念を共有する取り組みやホームでの独自の理念や目標づくりの取り組み等に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣の保育園やボランティアとの交流はあるが、日常的ではない	町内会に入り、運営推進会議等を通じて地域の方との情報交換が行われており、新たに民生委員の方との交流も始まっている。また、ホーム近隣に保育園があり、保育園との交流会の機会がつけられており、利用者の楽しみにもつながっている。	ホームに看護小規模多機能事業所が併設されている利点も活かしながら、事業所でカフェの取り組みも考えられていることもあり、地域の方との交流が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	どのようにしているのか報告がないためわからない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状報告はこまめに行っているが、サービス向上には活かされていない。利用者家族にも参加していただける様つとめる。	会議の際には、運営状況を記載した資料に基づいて報告しており、会議の出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議の際には、保育園の園長の参加の他にも、新たに法人代表者が出席する機会もつくられている。	家族の出席の協力が得られていない現状でもあるため、今後に向けた継続的な出席への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	連携はとれている。現在、認知症カフェについて、情報交換をしている。	介護事業所が集まる連絡会等に出席する等、情報交換の機会をつくる取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとも認知症カフェに関する情報交換を行う等、ホームの運営への反映につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会も行えていないため、すべての職員が正しく理解し対応できていない、徘徊時見守りをするようにしている。身体拘束マニュアルはあるが、浸透していない。玄関の施錠はしている	エレベーターが自由に動かすことができることで、各ユニットは施錠されているが、過去に利用者が開錠したこともあるため、職員間での連携が行われている。また、法人で研修会の取り組みが始まっており、今後は研修会を実施することになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などで学ぶ機会もない。スタッフ間でも言葉の虐待はないかケア方法についても話し合う必要がある。ほかのフロアのことは理解できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会もない。全員の職員が理解できていない。今後も必要の方の入居が来た時に学ぶ機会の検討が必要。自己学習はできている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様のご理解は得ているが、認知症の方に理解してもらっているかは不明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様の意見は聞く機会はあるが、運営につなげることができていない	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者と事業所を統括する施設長で対応する体制がつけられている。また、年4回の法人の機関誌をホーム便りとしている。	事業所の職員体制が変わったこともあり、今後、徐々に現場職員に役割を果たしてもらうような検討も行われている。ホーム独自の便りも含め、新たな取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見を聞かれることがない。全体会議などの意見のいう場はあるが、意見を活かし反映できていない	今年度、事業所を統括する施設長が交代したこともあり、新たな体制に移行している。職員からの意見等は、ホーム管理者の他にも、事業所の施設長や副施設長も把握する取り組みが始められている。また、施設長、副施設長による職員面談も始められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	フロア職員一人ひとりに居室担当を決めており、イベント企画担当を割り振ったりしているが、なかなか実践できていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に法人の研修があるが、人員不足のため、参加が難しい。働きながらのトレーニングは参加できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新人研修や株式会社めぐもあの総会はあるが、サービスの質の向上には活かせていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者様の普段会話をする中で不安や本音に耳を傾け安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時にはご家族様の要望に耳を傾けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様やご家族様がいま必要としているケアやサービスを説明していけるようにしていく必要がある。要望を聞き入れ、対応していく必要がある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	すべての介助において入居者様一人ひとりのペースを大切にしている。できていないこともあるが、常に声かけをし不安にならないようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様面会時に現状をお伝えし、入居者様やご家族様がゆっくりと過ごせる場所を提供している。イベント企画時はご家族様にも声をかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様以外の面会もあることはあるが、こちらからの働きかけは不足している	利用者の中には、ホームに併設した高齢者住宅に親族が生活している方がおり、ホーム利用者との交流が行われている。家族とも外出の機会をつくり、美容院等の馴染みのある場所等にも出かけ、時には自宅で家族と過ごした方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士が会話ができる環境作りを提供している。食事の席を考慮し、入居者様同士で会話できるように環境作りをこころがけている。入居者様ができることを大切に、できない方への助け合う環境作りにもこころがけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者様の状態やご家族の意向を伺い、施設内で病状に合わせた移動をおこなっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様のアセスメントやコミュニケーションを図る中で入居者様の意向や希望を把握するように努めている。意思疎通の難しい方はご家族様に確認している。入居者様がどんな思いなのか、傾聴するようにしている	利用者に関する把握方法については、ユニットより職員全員による把握と担当制を活用した把握で異なっており、職員に合わせた取り組みが行われている。また、カンファレンスについては、随時の実施が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活を入居者様やご家族様に伺い、アセスメントやケアプランに活かせるように努めている。どんな生活歴があるか把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録への記入。日々の様子を記載することで生活リズムや心身状態を各スタッフが把握できるようにつとめている。居室での生活内容も把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月に1回入居者様のモニタリングを行ない、本人やご家族様の意向を確認するように努めている。全職員がモニタリングやカンファレンスの場に参加できていない。モニタリングの作成はできている	介護計画の様式については、今年度よりライサポートプランの様式に移行しており、看護小規模多機能事業所と連携した取り組みが行われている。介護計画の見直しを6か月で実施しており、モニタリングについては3か月での実施が行われている。	介護計画の内容が職員間で共有され、日常の記録に反映できるように、定期的なカンファレンスの実施等、今後のホームの取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきや様子を記録に残したり、連絡ノートに記入し情報を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様の面会時には本人の様子をお伝えし、希望を伺うようにしている。少しずつ他部署との交流をはかっていきたい。その時々ニーズに臨機応変に対応できるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園との交流や傾聴ボランティアさんの来設あり		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診の付添いはご家族様へ依頼。遠方など事情により施設にて対応。主治医へは定期受診での情報提供をおこなっている	ホームでは、母体関連の医療機関の医師による毎週の訪問診療の他にも、日常的な医療面での情報交換等が行われている。また、副施設長が看護職員でもあるため、利用者に関する健康チェックや必要に合わせた職員への支援等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝礼や訪問看護時に日常的に情報交換を行っている。状態変化や受診の必要性の判断など指示をもらっている。記録を残し、必要な情報を看護師に提供するようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族様との連絡をとり、入院中の状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様へ緊急な状態変化や重度化した際の対応の説明を行い、同意書をいただいている	夜間も事業所内に看護職員が夜勤で勤務している体制でもあるため、ホームでも重度の方が生活しており、利用者の看取り支援の取り組みも行われている。また、研修会の取り組みについても、法人で実施していくこととなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員によつての差がある。すべての職員が対応できているとは言えない。マニュアルはあるが、定期的な訓練が必要。勉強会に1回しか参加できていないので、不安がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を行い、消火器の設置場所や使用方法・避難方法は学んでいるが、すべての職員に周知はできていない。地域との協力体制ができているかは不明	年2回の避難訓練には、併設事業所との合同で実施しており、4人の夜勤者が勤務している体制を活かした取り組みが行われている。訓練の際には、消防署の協力も得られている。また、必要な備蓄品についても事業所全体で確保されている。	当事業所は医療面での支援が充実していることで、非常災害時にも医療面での支援が可能な体制でもある。事業所の利点も活かしながら、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりを尊重した声かけや対応を心がけている。入居者様がそろう場所での排泄などの声かけは配慮が必要な場合もある。排泄の声掛けは、小声で話すようにしている	理念の中に利用者への尊厳の尊重が掲げられており、職員が日常的に利用者への対応を意識するような取り組みにつなげている。また、接遇面に関する研修会についても法人全体での取り組みが始められており、職員の振り返りに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクリエーションの参加は強制ではなく、入居者様に選択してもらっている。洋服の選択など自己決定をしてもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や気分にあわせて入居者様のペースで過ごせるように気を付けている。職員都合の声掛けになってしまうこともある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日ではないが、入浴時の着替えを準備する際に一緒に選んでもらうこともある。訪問理美容も定期的にある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは決まっているため、要望を聞くことはできていないが、おやつは食べたいものを聞いて準備するようにしている。入居者様に配膳下膳を手伝っていただくこともある	食事については、おかず類は外部業者も利用しているが、利用者の嗜好や好みにも合わせた、他のメニューの提供を行う配慮も行われている。重度の方も生活している為、ミキサーや刻みをはじめ、ムース食等の提供も行われている。	ホームでは、食器を変更したり、食事時間についても徐々に変更していく取り組みが行われている。食事は利用者の楽しみでもあるため、ホームで可能な取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量は個人に合わせて提供。食事形態も個人に合わせている。水分もこまめに提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯洗浄や歯磨きなど入居者様一人ひとりに合わせた口腔ケアを自己にてできることはしていただき、できない方は職員の介助にて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。尿パッドの種類や声掛け誘導の時間など個々に合わせた対応を検討している	記録方法について、インデックスを活用する等、一人ひとりの排泄状態を分かりやすくする取り組みが行われており、職員間での情報の共有につなげている。日常の申し送りを看護職員と行っていることもあり、医療面での支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳やヨーグルトの摂取するなど自然排便を促す取り組みをしている。それでも困難な場合は下剤の対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴の曜日や時間は決まっているため、希望通りには行えてない。入浴拒否がある場合は無理強いせず時間をあけて声掛けをしている	週2回の入浴が基本となっているが、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるような取り組みが行われている。併設事業所に機械浴と寝浴の設置が行われており、重度の方にも対応している。また、季節に合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や希望に応じ、自由に居室で休んでいただいている。昼寝をし過ぎに声掛けを行い、生活リズムを作ることで夜間良眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報ファイルにて、薬の内容を職員が確認できるようにしている。服薬の見守り・介助は必ず行うようにしている。あまり、理解できていないように思う。すべての薬を理解できていない。スタッフによって差があると思う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や得意なことを把握しうえて洗濯物をたたんでもらうなど、役割を持っていただけよう支援している。レクや散歩で気分転換をできるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	天気が良い日は、散歩にでかけるようにしている。ご家族様が外出に連れて行ってくださる時しか機会がない	ホームでは、季節や天候等にも合わせて、可能な範囲でホーム周辺の散歩等に出かける取り組みが行われている。季節に合わせた花見等の外出行事が行われており、その際には家族にも参加の呼びかけも行われている。	外出の機会が少ない現状があるため、近隣にあるコンビニに出かける取り組みをはじめ、利用者が外に出る機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金は基本もっていたが、施設管理としている。必要な時はご家族様と連絡をとるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話連絡は希望する方がいないため促していない。手紙や年賀状は入居者様宛に書くことはあるが、入居者様が書くことはできていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用スペースだけでなく、居室も職員が清掃し清潔を保つようにしている。カーテンにて光の調整をしている	リビングがホーム建物の2階と3階にあることで、採光に優れた環境であり、利用者が日中を明るい雰囲気でも過ごすことができる。また、季節に合わせた飾りつけを行ったり、利用者の作品やホームでの様子を写した写真の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に居室とフロアーを行き来できるようにしている。食事の席も固定にはしていない		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族や入居者様には使いなれた馴染みのある家具や食器などを持ってきていただき、居心地よく過ごせるよう気にかけている	利用者により、様々な家具類や身の回りの物を持ち込んでいる方がいる一方で、シンプルな雰囲気の方もおり、利用者に合わせて居室づくりが行われている。また、ベッドは備え付けとなっているが、状況に合わせてベッド以外での対応も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室に名札をつけ、わかるようにしている。リビングや居室には刃物などを置かないようにしている。異食などのある人は配慮している		